第１９３回　「元気に百歳」クラブ俳句サロン「道草」開催

コロナウイルス感染症は「第三波」の到来と言われており、日本各地ごとの日次感染者数が、過去最大と言われることが多くなっています。全国の日次感染者数が２０００人を常時超え、先日は２８００人に及びました。そして、全国での病院病床数が逼迫してきており、都道府県知事や病院管理者からも国に対して、救援の警鐘が鳴らされていますし、ご担当の医師、看護師の疲労困憊も著しいものがあります。我が国にとって年内いっぱいは、まさに正念場と言えるのではないでしょうか。

会場である「新橋ばるーん」は、本日も緊張感が漂っていましたが、ご参加いただいたのは、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然の１０名でした。そして投句で参加して下さったのは、板倉歌多音さん、木村栄女さん、住田幸佳さん、舩戸清助さんの４名です。

住田先生は、先月に引き続き『今もひびく昭和の名句』という前篇、後編と続いている資料（A４用紙にして７０枚以上）の大量の資料を、私たちに配布して下さいました。帰宅して拝読しましたが、近代俳句の歴史の記述もある貴重な資料です。「お正月休みに時間を割いて読んで下さい」と、住田先生も仰いました。じっくりと拝読します。先生有難うございました。また、いつものように明峰さんが、草月庵の銘菓「黒松」を差し入れて下さいました。明峰さん有難うございます。
本日の句会の始まりです。住田先生が提示された席題は次の通りです。緊張の時間が静かに経過して、皆さんの力作が詠まれ、住田先生に提出され、先生の名筆で緑、赤、白の短冊に書かれ、黒板に並びました。選句された結果、天賞、最多得票賞（☆印）に輝いた秀句は次の通りです。

席題１．「年用意」又は「春支度」
◎『表札を正して終わる年用意』　明峰　　天３☆５
◎『千円を新札に替え年用意』　和感　　天１☆５

席題２．「懐手」
◎『懐手去年のメモを見つけたり』　和感　　☆５
◎『転ぶなよ母の声する懐手』　多佳　　☆５
◎『夜半の客送りて戻る懐手』　荻女　　☆５

当季雑詠の自由題（＝冬＝）
◎『生き抜きし喜びもあり十二月』　明峰　　天３☆５
◎『わけもなく人を急かせる師走かな』　月草　　天２☆５
◎『冬ざるる彩なき日々の赤きシャツ』　幸佳（投句）　天１
◎『落ち葉掃く逆らう風や天神社』　清助（投句）　天１

（道人の一句）
コロナ禍や外出自粛の懐手　住田道人

席題１．では、先ずは明峰さんの句「表札を正して終わる年用意」が、天賞三つと最多得票賞（☆印）を獲得されました。ここ数か月、天賞句については、選者の方に「天賞に推挙した感想」を述べていただくことにしていますが、この句へ感想として「新年を迎える準備として万全であるという心境と所作が上手く表現されている」とありました。全く

その通りだと思います。次に和感さんの句「千円を新札に替え年用意」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得されましたが、この句もお正月に集まって来るご親族へのお気遣いが詠み込まれた句です。特に小中学校のお子様への「お年玉」の準備ではないかということが容易に想像できます。自然と笑顔が浮かぶ微笑ましい一句になりました。

席題２では、天賞句がありませんでしたが、お三方が最多得票賞（☆印）を獲得されました。先ずは和感さんの句「懐手去年のメモを見つけたり」です。この句はお正月、それも元旦ではないかと想像できます。一年振りに着た和服の袖の中に、去年のメモが入っていたというものです。なんだか懐かしさがこみ上げて来るように思います。次は多佳さんの句「転ぶなよ母の声する懐手」です。この句はご子息のことを思い出しての句でしょうか。それとも若い頃を思い出しての句なのでしょうか。いずれにしても選者は、ご自身の身に置き換えて考え、共感を得たのでしょう。シチュエーションは違いますが、多佳さんの先月の句「片手あげ振り返らぬ子冬に入る」が、思い出されますね。もう一句、荻女さんの句「夜半の客送りて戻る懐手」も、最多得票賞（☆印）です。この句は景が鮮明に浮かんできます。自分自身の「ふるまい」を、見られているような気がしますね。懐手をして小走りで家に戻る姿が浮かんできます。

自由題では、ここでも明峰さんの句「生き抜きし喜びもあり十二月」が、天賞三つと最多得票賞（☆印）を獲得されました。この句の底に流れている「この一年、よくぞ生きてきた」という基調が重厚です。選者のお一人が、中七で「喜びもあり」と言われた「も」に「奥深いものを感じました」と言われました。お見事です。次に月草さんの句「わけもなく人を急かせる師走かな」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句を天賞に推挙された選者のお一人は、上五の「わけもなく」の表現に、もう一人の方は句全体に、師走の忙しなさが表現されていると感想を述べられました。
今日は投句の方、お二人が天賞一つを獲得されています。幸佳さんの句「冬ざるる彩なき日々の赤きシャツ」がそれです。「彩のない荒れ寂れた冬の情景を思わせる日々が続いており、せめて赤シャツを着て、一矢を報ってやろう」との心意気を詠んだ句でしょうか。この一年、わが国の沈滞した現状に、「赤心」をもって応えようという心意気も感じられます。もう一句、清助さんの句「落ち葉掃く逆らう風や天神社」も天賞一つを獲得されました。「落ち葉というやつは、人の思い通りにはならないもの」という観点で立ち向かうとき、あるいは「落ち葉の一枚一枚に、多様な過去の出来事を想定して」という感慨で対応するとき、作者の気持は如何だったでしょうか。今日の選者は、前者に共感なさったようですね。

お蔭さまで三カ月続けて「新橋ばるーん」で、「道草」句会が出来たことは、誠に喜ばしいことでした。来年もまた継続して句会が持てることを祈るのみです。お正月は、先生からいただいた俳句の研究資料を勉強しましょう。また、常々先生から、俳句は「座の文芸」と言われています。「座の文芸」たる本質も掴みたいですね。新年は１月８日が初句会です。元気に「新橋ばるーん」に集まりましょう。皆さん、どうぞ良いお年をお迎え下さい。

白然（記）